



小児救急に行く

その前に



小児救急に行くその前に

小児救急のかかり方

監修 一般社団法人八王子市医師会
 発行 八王子市健康医療部健康医療政策課
 電話 042-620-7292
 FAX 042-621-0279
 E-mail b660100@city.hachioji.tokyo.jp
 令和7年（2025年）3月発行

小児救急のかかり方

八王子市 八王子市医師会

救急車を呼ぶとき
 上手に医者にかかる
 発熱
 けいれん
 腹痛・嘔吐
 下痢
 咳・喘鳴
 息苦しい
 やまな泣き
 発疹
 耳・目・鼻の異常
 口の異常・頭をぶつけた
 やけど
 お腹や目をぶつけた
 擦り傷
 誤飲・誤嚥
 こどもの心肺蘇生
 AED
 こどもの事故予防
 小児救急の情報

はじめに

核家族化や近所付き合いの希薄化、夫婦共働きなどが進み、子育てを取り巻く環境は大きく変化し、お子さんが急に体調を崩したときなどに、子育て経験の豊かな方に相談する機会が少なくなってきました。

こうしたことから、軽症にもかかわらず、夜間や深夜の時間帯に救急診療を受けるお子さんが増えています。そのため、24時間体制で救急診療を行っている本市中核病院（東海大学医学部附属八王子病院・東京医科大学八王子医療センター）では、入院治療を必要とするような重症のお子さんにすみやかな診療を行えることや、小児科医への過度な負担を軽減していくことが大きな課題となっています。

このパンフレット「小児救急のかかり方」は、みなさまに小児救急診療を受けるかどうかの目安にさせていただくために、一般社団法人八王子市医師会小児科部会の先生方の協力を得て作成しました。

日中に「かかりつけ医」を受診すべきか、夜間や深夜でも医療機関に行くべきか、それとも救急車を呼ぶべきかなど、迷ったときに活用していただければ幸いです。

このパンフレットの使い方

こどもの急な病気などで医療機関を受診するかどうか迷ったら、一番心配な症状のページを見てください。

症状の書いてある囲みの色によって、どのように受診したらよいかのアドバイスが示してあります。また、病気の説明やホームケアなどについて簡単に書いてありますので、参考にしてください。

なお、この冊子の内容は、令和7年（2025年）3月現在の医学的判断をもとに作成されています。今後、内容は変更される可能性があります。

もくじ

● どんな時に救急車を呼べばよいのか	4~5
● 上手にお医者さんにかかるには	6
● 熱が出た	7~9
● けいれん	10~11
● 腹痛・嘔吐・下痢	12~13
● 咳・喘鳴（ゼーゼー、ヒューヒュー）・息苦しい	14~15
● 赤ちゃんが泣きやまない	16~17
● 皮膚のブツブツ（発疹）	18~19
● 耳・目・鼻の異常	20~21
● 口の異常・頭をぶつけた・やけど	22~23
● お腹をぶつけた・目をぶつけた・手足・擦り傷・切り傷	24~25
● 誤飲	26~27
● 誤嚥	28~29
● こどもの心肺蘇生術	30~31
● 自動体外式除細動器（AED）の使い方	32~33
● こどもの事故予防	34~35
● 小児救急に関する情報	36~39

囲み色の意味

日中にかかりつけ医へ	あわてなくてもよいのですが、夜間の場合は翌日の診療時間内には必ず「かかりつけ医」に診てもらいましょう。
夜間でも相談または受診	昼間は「かかりつけ医」へ、夜間は電話相談または救急医療機関（P5、P36）を受診しましょう。
救急車を呼ぶ	救急車を呼びましょう。もし、救急車を呼ぶかどうか迷ったら“#7119”（または042-521-2323）へ相談を！

どんなときに救急車を呼べばよいのか？

[救急車を呼ぶ目安]

- けいれんが止まらない、5分以上続く、繰り返す
- 呼吸がきわめて困難になっている
(顔や唇が青紫の時・極端に呼吸数が少ない時)
- 意識が無い
- 出血が激しく止まらない
- 広範囲のやけど・顔のやけど(眼・鼻・口)



119番通報

- ① 「119」をダイヤル
- ② 「救急車をお願いします」と伝える
- ③ こどもの名前、年齢、住所、電話番号、場所の目印となる建物などを伝える
- ④ こどもの症状を伝える

救急車を待つ間

- ① 救急隊からの折り返し電話に必ず出られるようにする
かかってきたら、こどもの様子・持病などを伝え、また、応急手当でのアドバイスを受けることができる
- ② 健康保険証、**乳****子**などの医療証、母子手帳、お金を用意する、こどもの身長・体重を確認しておく
- ③ 持病がある場合は、その病名とかかりつけの医療機関を確認しておく

救急車が到着したら

- ① 救急隊員の指示に従う
- ② 入院せずに帰宅する場合もあるので靴を持参する
- ③ 家を出る前に火元を確認し、戸締りを忘れずに！

こどもの急な病気・けがなどで
受診するかどうかを悩んだら...

八王子市夜間救急診療室電話相談

毎日午後8時～10時30分 ☎663-9911

救急車を呼ぶべきか迷ったら

「東京消防庁救急相談センター」24時間

プッシュ回線・携帯電話・PHSから ☎#7119

ダイヤル回線から ☎042-521-2323

こどもの急な病気に困ったら

「子供の健康相談室（小児救急相談）」

月～金：午後6時～翌朝8時

土・日曜日、祝・休日・年末年始：午前8時～翌朝8時

プッシュ回線・携帯電話・PHSから ☎#8000

ダイヤル回線から ☎03-5285-8898

上手にお医者さんにかかるには

できるだけ通常の診療時間内に受診しましょう

- 診療時間は、医師や看護師、薬剤師、臨床検査技師など多くのスタッフがそろっており、より充実した診療がスムーズにできます。また、日ごろから「かかりつけ医」を決めて、いろいろなことを相談できるようにしておくことが大切です。

お子さんを連れていく人

- お子さんの症状や様子のわかる人が、一緒に行きましょう。（熱・食事の状況・飲んでいる薬などについて説明のできる人）
- 特に、普段と違った部分「何となくおかしい」について説明のできる人が、連れて行きましょう（祖父母などに頼む時は、症状についての詳しいメモを持っていってもらいましょう）

必ず持っていくもの

- 保険証、**乳**（**子**）の医療証、母子手帳、診察券、こどもの状態が分かるもの（例：体温を記録したメモや便・便の写真など）
- 飲んでいる薬や薬の名前がわかるもの（お薬手帳があれば持参しましょう）
- 医師の説明を記録するためのメモ帳

持っていくと便利なもの

- 着替えやタオル、替えオムツ、ティッシュペーパーなど
- 待ち時間のためのオモチャや絵本など

診察室でたずねられること（あらかじめ整理しておきましょう）

- 気になる症状はどんなことですか？
- その症状はいつからありますか？
- 今までに大きな病気にかかったことがありますか？
- 薬や食べ物にアレルギーがありますか？
- 家族にも同じような症状がありますか？

休日や夜間のかかり方

- あらかじめ、休日や夜間に対応してくれる医療機関を確認しておきましょう。
- 「広報はちおうじ」で「休日救急診療 内科・外科・小児科」でご確認ください。
- 八王子市のホームページ(<http://www.city.hachioji.tokyo.jp>「もしもの時のために・救急診療」)にも掲載されています。(36ページ参照)
- 夜間どうしても受診が必要な時は夜間救急診療室や救急病院を利用しましょう(36-38ページ参照)。
- 症状が重いと思う場合は、119番に電話し、救急車を呼びましょう。



熱が出た

日中にかかりつけ医へ

- 生後3か月以上で38℃以上の熱が出たが、ミルクや水分は、ある程度取れる
- 夜になって39℃以上に熱が上がってきて本人は多少つらそうだが、水分は少しずつとれる
- 発熱して1～2回吐いたが、その後は続いていない
- 高熱でぶるぶると震えもあったが、意識はしっかりしている
- 発熱してインフルエンザや新型コロナウイルスが心配

夜間でも相談または受診

- 高熱となり何度も吐いている
- 水分を何度与えてもほとんど飲まない
- 生後3か月未満で38℃以上ある
- 発熱して何度か「かかりつけ医」を受診しているが、何日も熱が下がらず、いよいよぐったりしてきた
- 高熱で顔色が悪く、呼吸が苦しそう
- 41℃を超えた

救急車を呼ぶ

- 高熱でぐったりし意識がない

発熱とは

発熱とは、わきの下での体温が37.5℃以上のことを言います。こどもでは40℃以上出ることも珍しくありません。また、2歳までに平均4～5回以上熱を出します。熱が出て、それだけで夜間でもすぐに病院を受診する必要はありません。救急にかかるのは、単に熱が高いからではなく、全身状態に問題がある場合（痙攣^{けいれん}、顔色不良、ぐったり）や他の症状（咳が止まらない、呼吸が苦しい、繰り返す嘔吐、激しい頭痛・腹痛、など）が伴う場合にしましょう。

発熱は体の防御反応

こどもはよく熱を出しますが、その原因の多くはウイルスの感染（かぜ、突発性発疹、インフルエンザなど）や細菌（溶連菌など）の感染によるもので、体の免疫機構が働き防御反応として病原体と戦っている状態なのです。

乳幼児がよく熱を出すのは、様々な微生物に対する免疫を獲得していく成長体験とも言えます。

発熱の主な原因

- ウイルス感染は発熱の最も多い原因です。その多くは風邪です。突発性発疹、水痘、おたふくかぜ、インフルエンザ、新型コロナウイルス、ノロウイルスやロタウイルスによる胃腸炎、RSウイルス感染など、こどもが熱を出す多くの病気もウイルス感染によるものです。ウイルス感染では抗生剤は効果がなく、自然治癒が基本となります。一部の抗ウイルス薬を除き直接ウイルスに効く治療薬はありません。肺炎、脳症など、重症化して呼吸や意識状態に問題あれば救急受診の必要が出てきます。
- 細菌感染症は、溶連菌感染、細菌性肺炎、O157などの出血性腸炎、尿路感染症、細菌性髄膜炎など、ウイルス感染に比べ頻度は少ないものです。自然経過では治癒しにくく、正しい診断と適切な抗生剤治療が必要となります。救急的にも重要なものは細菌性髄膜炎で、熱＋頭痛＋嘔吐があり、ぐったりして元気がない場合は早期受診が必要です。
- 感染症以外にも、熱中症、川崎病、白血病などの悪性腫瘍、膠原病など、発熱が初期症状の病気はたくさんあります。いずれも「熱の他にどんな症状が出るか」を参考に診断していくものです。
- いずれも、熱が出て間もない時は正しい診断ができないことが多く、40℃を越す高熱だから脳に異常をきたすということはないので、まずクーリングをして様子を見ましょう。

Column

発熱時のホームケア

- クーリング：熱の出始めで寒気がある時は温めてもよいですが、高熱になって顔もほてってきたら薄着にして、氷枕や保冷剤で冷やしてあげましょう。39℃以上あれば3点クーリング(後頭部から首筋・わきの下・足の付け根)でもよいです。濡れタオルで汗を拭いてあげるのも気化熱で熱を下げる効果があります。本人が心地良い冷やし方をしてあげましょう。
- 室温は冬では22℃前後、夏は25～28℃、湿度は50％が目安ですが、大人が心地よい室内環境でよいです。
- 水分はまめに与えましょう。お茶、ジュース、イオン飲料など。下痢がなければアイスクリーム、シャーベットなどでもよいでしょう。
- 入浴は38℃以下で元気ならさっと汗を洗い流す程度に、それ以上では蒸しタオルで拭いてあげましょう。冷たいタオルも爽快感がありよいでしょう。
- 解熱剤は、本人が元気にしていて食欲もある程度あり、眠れるようなら使う必要はありません。38.5℃以上でつらそうにしている、水分も取らず食欲もない、眠れない、寝てもすぐに起きてしまうなど安静が保てない時には、解熱剤を使ってもよいでしょう。解熱している間に食事がとれたり、安静が保てたりすることがあります。アスピリン、ポンタール、ボルタレンなど大人の解熱剤は使わないでください。

インフルエンザや新型コロナウイルスを疑うとき

周囲でインフルエンザや新型コロナウイルスが流行していれば、発熱すると心配になりますが、発熱初期では迅速検査は多くの場合、陰性となります。受診が早すぎて診断できないことを避けるため、発熱後、全身状態がよければ半日以上経過してからかかりつけ医を受診しましょう。

けいれん

日中にかかりつけ医へ

- 熱性けいれんの経験があり、今回も発熱に伴って5分以内のけいれんが起ったが、その後意識がもどって呼びかけに反応するようになった
- 高熱になり、体がピクッと震えたが、意識はある（ふるえ）

夜間でも相談または受診

- けいれんは数分で止まり、その後呼吸はしっかりしているが、意識がもどっているか心配
- けいれんのしかたが体の左右で明らかに差が見られた
- 熱が38℃もないのにけいれんした
- 初めてけいれんが起きた

救急車を呼ぶ

- けいれんが5分以上続いている
- けいれんに伴って口から泡を吹いたり、呼吸がゼーゼーしている
- けいれんが24時間以内に2回以上あった
- けいれんは止まったが、何度呼びかけても意識がもどらない

熱性けいれん

熱の上昇期に突然、意識がなくなり全身が硬直してピクピク震える発作が起こることがあります。これが熱性けいれんで、生後6か月頃から5～6歳までのこどもに起こります。熱性けいれんは、通常良性の病気で後遺症もなく年齢とともに消失します。

熱性けいれんは5分以内で止まることが多いですが、それ以上続く場合は「けいれん重積」と言って、静脈注射でしか止められないこともあります。呼吸も不規則になりますが、すぐに生命が危なくなることはありません。

熱性けいれん時の処置

- けいれんをすぐに止めることはできないので、呼吸をしやすいように服を緩めましょう。
- けいれん時はよく吐くので、それに備え、吐物を吸い込まないよう顔や体を横に向けましょう。
- けいれんの最中に指や割り箸など口にもものを入れてはいけません。
- けいれんの持続時間、体温を見ましょう。そして、右半身、左半身でけいれんのしかたに差がないかをよく観察しましょう。
- あらかじめ、けいれん時にけいれん止めの座薬、又は口腔用液を指示されている場合は投与してください。

無熱性けいれん

熱がないのに、突然けいれんが起こるのは、重大な原因がある可能性があります。様々なてんかん、脳出血や脳梗塞、脳腫瘍、中毒、ヒステリーなど多様です。

左のページの表に従い、けいれんが長くつづく時や意識がもどらないときは救急受診が必要です。

腹痛・嘔吐・下痢



腹痛

日中に
かかりつけ医へ

- 痛みが短時間である
- 普段から排便回数が少ないか、便が固いことが多く、排便により軽減する

夜間でも
相談または受診

- 激しい痛みが続いている
- 足の付け根や陰のうが腫れている
- 機嫌が悪くミルクを受け付けない
- 繰り返し激しく泣き、血便が出た



嘔吐（おうと）

日中に
かかりつけ医へ

- 嘔吐の回数は少ないか、多くても改善傾向があり水分が取れ始めている
- 吐いた後は吐き気がおさまっている

夜間でも
相談または受診

- ミルクや水分をとってもすぐ嘔吐する
- 吐物に血液や胆汁（緑色）が混ざる
- 尿が半日以上出ていない
- 激しい頭痛や腹痛がある
- 強く頭を打った
- 2か月未満の乳児で普段の嘔吐（いつ乳）より増えている、あるいは噴水状の嘔吐が続く



下痢

日中に
かかりつけ医へ

- 水分はとれる
- 下痢の回数は多いが機嫌は良い

夜間でも
相談または受診

- 水分を受け付けず、ぐったりしている
- 尿が半日以上出ていない
- 便に血液が大量に混じっている

腹痛

こどもの腹痛の原因として最も多いものは便秘です。しかし、時には緊急の処置が必要なものもあります。排便により症状が改善した場合は様子を見てよいでしょう。激しい痛みや、高熱がある場合は緊急性が高い可能性があります。

嘔吐・下痢

嘔吐や下痢は小児によくみられる症状です。回数が少なく、少しずつ水分を摂取できれば緊急性は高くありません。緑色や黄色の便は異常ではありません。ウイルス性の下痢では、酸っぱい臭いの便や白い便はロタウイルスが有名ですが、それ以外のウイルス腸炎でも見られます。また、ロタウイルスやノロウイルスなどの診断をつける意義は緊急性の面では少ないです。熱が出ていても、水分がとれていて尿が出ていれば緊急性は高くありません。尿が長時間出ていない、ぐったりしているなどの症状があれば早めに受診しましょう。

水分のとり方

嘔吐した直後は30～60分休ませた後、水分を一口とって少し様子を見ましょう。すぐに大量に飲むと、また吐いてしまいます。少量飲ませて嘔吐しなければ、少しずつ増量しましょう。母乳を飲んでいる場合は、母乳も少しずつ与えてみましょう。水分を増やしていく間も嘔吐の症状がなく、吐き気もひどくなければ少しずつ食事への移行が可能です。ただし、回復早期での脂質性の強いもの、冷たいものの摂取は避けてください。脱水状態の改善に有効な経口補水液（OS-1など）が薬局・ドラッグストアなどで市販されています。スポーツドリンクなどに比べ、糖分が少なめとなっていて、体内への吸収が早く症状の緩和に効果的です。少量ずつこまめにとるように心がけましょう。

注意すべき病気 似たような症状があれば相談または受診

◎急性陰嚢症^{いんのう}

あまり知られていませんが、特に思春期以降の男児で多い急性陰嚢症（陰嚢内の急激な痛みを伴う病態）では睾丸・陰嚢内の痛み、他に腹痛を訴えることが多くあります。急性陰嚢症は早急な外科的対応を要する疾患が隠れている可能性があります。男児が腹痛を訴えている時には念のため陰嚢の腫れや圧痛がないかを確認することは重要です。

◎腸重積

腸の一部が内側に入りこみ重なりあった状態。

乳幼児に多く、5～15分おきに機嫌が悪くなり泣きだします。

一度おさまっても再び激しく泣くことをくり返し、嘔吐や血便を伴うことがあります。

◎虫垂炎（盲腸炎）

右下腹部にある腸の先端部分（虫垂）の炎症。

10歳代～30歳代に多く発症しますが、10歳未満でも発症することがあります。痛みは上腹部からしだいに右下腹部へと移動します。症状が進行すると発熱、吐き気、嘔吐を伴います。

咳・喘鳴ぜんめい（ゼーゼー・ヒューヒュー）・息苦しい

日中にかかりつけ医へ

- 元気がある、機嫌がよい、普通に遊ぶ、スヤスヤ眠れる
- 咳や喘鳴が時々みられるが、呼吸が苦しそうでない
- ケンケンした咳やオットセイの鳴き声のような咳を時々しているが、機嫌がよい、眠れている

夜間でも相談または受診

- ケンケンした咳やオットセイの鳴き声のような咳をして、声がかすれてほとんど聞こえない
- 息を吸う時にヒューヒュー聞こえ、息苦しそうに暴れる
- （ピーナッツや玩具を、口の中に入れていて）突然むせて激しい咳き込みが続く
- 次の苦しそうな（呼吸困難を疑わせる）症状のいずれかを伴う時
 - ・言葉が途切れがちになる、会話ができない
 - ・歩くと苦しい、歩行できない
 - ・横になると苦しい、眠れない
 - ・ぐったりしている
 - ・水分や食事をとりたがらない
 - ・苦しそうな表情で、あえいだり、うめき声をあげる
 - ・呼吸数が1分間に50以上で苦しようにする
 - ・苦しように体を動かしたり、肩で息をする
 - ・胸で強くヒューヒュー・ゼーゼーする
 - ・息を吸う時に、肋骨（ろっこつ）の間やその上・下、のどの下がへこみ、苦しそう

救急車を呼ぶ

- 顔色や唇の色が**青紫の時**（チアノーゼ）
- **極端に呼吸が少ない**

病気の仕組み

鼻から肺までを気道といいます。鼻から喉頭までを上気道、気管から肺を下気道と分けま
す。咳は気道にたまった分泌物・痰・異物などを排除する防御反応の役割があります。苦し
さのない咳では、もし原因が肺炎であったとしても救急受診する必要はありません。

呼吸に伴って、ゼーゼー・ヒューヒューという音が聞こえることを喘鳴ぜんめいといいます。気道
が痰・分泌物・炎症・腫れなどで狭くなった時に聞こえます。息を吸ったときの喘鳴は上気
道、息を吐いたときの喘鳴は下気道に、異常がある際に聞こえます。

- 乳幼児で、ケンケンした咳やオットセイの鳴き声のような咳をして、声がかすれて、息を
吸う時にヒューヒュー聞こえ、時に息苦しくなる代表的な病気が『仮性ク룹』で
す。
- 0歳～1歳で、RSウイルス等の感染により、熱とともに息を吐くときにゼーゼーしながら
呼吸が早くなる代表的な病気が『細気管支炎』です。
- 気管支が細くなり、息を吐く時にゼーゼー・ヒューヒューする代表的な病気が『気管支
喘息』です。

気管支喘息発作

- 喘息発作の対処には、主治医と事前に相談しておくことが大切です。特に指示されていな
い場合は、次のようにしてください。
- 喘息発作でチアノーゼを示す時は、発作用の吸入を行いながら救急車を待ちましょう。
- チアノーゼがない喘息発作では、発作用の吸入をして30分、または発作用の薬を内服して
1時間しても楽にならないときに、受診しましょう。
- 喘息発作を起こさないように、日ごろからの予防的な治療が重要です。

ホームケア

- 横になると苦しい時は、何かにもたれかけさせて上体を起
こした姿勢にしてください。この状態が続く場合は、受診ま
たは相談をしてください。（右図参照）
- 痰がからんだ咳には、少しずつ水分を飲ませ、背中や胸を
さすってあげましょう。
- 仮性ク룹の時は、室内の乾燥は避けましょう。
- 高熱がなく、顔色が良いとき、元気があるときは、お風呂
に入りましょう。



赤ちゃんが泣きやまない

日中にかかりつけ医へ

- おしりが赤い
- 2～3日前からウンチが出ていない
- 耳をさわる、耳だれがある
- 大声で大泣きをする、意識はしっかりしている

夜間でも相談または受診

- 泣いていたのに、急に泣きやみぐったりした
- いつもと泣き方がちがう
- おむつをかえるととき、足を痛がる
- 足の付け根がふくらんでいる
- 顔色が悪く、不機嫌そうに痛がる
- 激しく泣いて、呼吸が止まったようになり、真っ青となる
その後、ひきつけた



赤ちゃんが泣きやまないわけ

乳幼児が泣きやまない原因は非常に多く、年齢によっても様々です。おっぱいを与えたり、だっこで泣きやむ場合、まず心配はありません。

- 1～3か月ごろの赤ちゃんが、いつも決まって夕方ごろに泣き出すのをコリックといいます。原因ははっきりしませんが、その後4か月、5か月と月齢が進むにつれて自然にみられなくなります。
- 泣きやまない原因がおむつかぶれや、便秘、中耳炎でも軽症の可能性が高い場合は、経過観察でもよいことが多いので、日中に「かかりつけ医」を受診してください。しかし、赤ちゃんの状態が急に変化したり、泣き方がいつもと比べてちがうと感じる時は、夜間でも相談または受診して下さい。
- 足の付け根がふくらんでいる時には、鼠径ヘルニアそけいが考えられます。激しく泣いた際など、足の付け根に力が入った場合にみられます。ふくらみが戻らなくなり泣き続ける場合は、夜間でも相談または受診して下さい。
- 激しく泣いた後ひきつけた場合は、泣き入りひきつけふんぬ（憤怒けいれん）が考えられます。ひきつけは自然に止まりますので、心配はいりません。

便秘の対処法

新生児・乳児：綿棒を食用油やワセリンで湿らせ、肛門に1cmほど（綿棒の先が隠れるくらい）入れたり、出したりして刺激してみます。

幼児：市販の浣腸液を使用してみてください。

夜泣きしたとき

まずは泣いている原因を考えてみましょう。オムツを替えたり授乳しても泣き止まない場合は、暗く静かな部屋で抱っこしてみてください。外に出て気分転換させるのもよいかもしれません。

しかしながら、夜泣きの原因ははっきりしないことが多いのです。親のイライラが赤ちゃんに伝わり、ますます激しく泣いてしまいます。こんな時にはなかなか難しいことですが、穏やかな気持ちで接してあげましょう。

皮膚のブツブツ（発疹）

日中にかかりつけ医へ

- 薬を飲んで発疹が出てきた
- もりあがった発疹が出てきた
- 目とくちびるが真っ赤だ
- 皮膚のブツブツに、膿（うみ）や汁（しる）がある
- リンゴのような赤いほっぺたになった
- 熱が長引き、皮膚のブツブツが出はじめた
- 暗い紫色の小さな点々が、足の膝から下に出ている

夜間でも相談または受診

- かゆみが強い発疹が急に全身に広がった
- 顔やくちびるがはれぼったい
- 息苦しく、声がかすれてきた
- 関節やおまた（陰のう、股のつけね）を痛がる
- 高熱で目やにや、せきがひどく、元気がない

救急車を呼ぶ

- 皮膚の発疹、赤み、かゆみなどに伴いひどい咳、息が苦しい、嘔吐、腹痛などの症状が出た

発疹が出たら

発疹の多くは、それほど緊急性が少なく、救急で受診する必要はありません。しかし、他のこどもたちに感染するようなものもあるので翌日には医療機関を受診しましょう。症状が出ているうちに写真を撮り、診察時に見せるのも良いでしょう。受診する場合、他の患者さんにうつす可能性があることを十分に理解し、医療機関に伝えてください。

お医者さんに伝えましょう

- ブツブツが出る前に、いつもと違うことをしましたか？
（薬を飲んだ、外で草木、虫などにさわった）
- 保育園や幼稚園に同じような症状のあるお子さんがいましたか？
- 今まで薬や食べ物でアレルギーを起こしたことがありますか？
（あれば、何で起こしましたか？）

ホームケア

- かゆみが強いときには、冷たいタオルなどを当てて少し冷やしてみてください。
- まぶたが腫れたり喉がゼーゼーしたり、かゆくて仕方がないなど他の症状がなければ、とりあえず家で様子をみて大丈夫でしょう。
- ブツブツが出る直前に薬を飲んでいた場合、その薬は飲ませないようにしましょう。また病院にその薬の説明書を持って行きましょう。
- 小さなお子さん、特に赤ちゃんは肌がデリケートなので赤いブツブツがしやすいものです。特にお風呂あがりには赤味が強く見えることがあります、ご心配なく。
- よだれやミルク、汗などで余計ひどくなるのでお肌の清潔が第一。お風呂できれいにしてあげましょう。
- ベビーオイルでかえって肌荒れが強くなることもあるので、塗り薬といえども安易な使用は控えて、翌日「かかりつけ医」を受診しましょう。

じんましん

健康な皮膚が何かに刺激を受け、いろいろな大きさの赤い腫れ^はが現れ、強いかゆみを伴う病気をじんましんといいます。多くのものは数分から数時間後に痕は残らずに消えてしまいます。注意を要するものとしてアナフィラキシー（アレルギーに暴露されたあと急速に皮膚《発疹、かゆみ、舌や唇の腫れ》、呼吸《咳、呼吸困難》、消化器《腹痛、嘔吐》などの症状がでる）があります。ショックとなり命にかかわることがあります。疑いのある時は一刻も早く救急車を呼んでください。医師からエピペンを処方されている場合は速やかに使用して下さい。

耳・目・鼻の異常

耳の異常

日中にかかりつけ医へ	● 耳の痛みがある ● 耳だれがでてきた	● 耳の聞こえが悪い
夜間でも相談または受診	● 頭部打撲後や耳を耳かきなどで突いたあとに、透明な液体が出てきてめまいが出現してきた	
救急車を呼ぶ	● <u>意識状態が悪い</u> 場合	

目の異常

日中にかかりつけ医へ	● 目が痛い ● 目が充血している	● 目やにが出る ● まぶたが腫れている
夜間でも相談または受診	● 目に異物が入って取れない、痛みがある	
救急車を呼ぶ	● 酸性やアルカリ性のものが入った場合には <u>速やかに水洗い</u> をしてください	

鼻の異常

日中にかかりつけ医へ	● 鼻づまりで寝苦しそう ● 鼻水が出る	● 鼻血が出る
夜間でも相談または受診	● 右記の処置を行っても鼻血が止まらない	

耳の痛みがあるとき

急性中耳炎の可能性が高いですが、おたふく風邪、頸部（くび）のリンパ節炎でも耳の痛みを訴えることがあります。

- 痛みが強い時は解熱鎮痛剤（座薬や内服薬）を使用すると痛みが和らぎます。もし解熱鎮痛剤が無い場合は冷やしてあげると痛みが和らぎます。
- 耳だれが出ている時は綿棒などを奥までは入れず、手前に出てくる液を拭き取るようにしてください。翌日、日中に耳鼻科を受診してください。

目の化学損傷

酸性やアルカリ性のものが入った時は失明に至る危険性があるため、救急車を呼び、以下の処置を行ってください。

1. 化学物質などが入った方の目を下にして顔を傾け、目をゆるい流水で洗う。まぶたや目の周囲も十分に洗浄する。
2. 大きめの清潔なガーゼでおおう。

目やに、目の充血

目やにが出てきたり、目が充血している時は結膜炎を起こしている可能性があります。結膜炎の原因は、鼻風邪、アレルギー、ウイルスや細菌の感染などがあります。病院を受診するまでの家庭での対処は、目をこすると炎症が悪化する可能性があるため、できるだけこすらないように気をつけてください。

また、感染性の結膜炎の可能性があるときは、目やにを拭いたティッシュは毎回捨てるようにして、顔や手を拭くタオルも他の家族と共有しないようにしてください。

鼻血が出た時の処置

1. 鼻血を飲まないように下を向けさせましょう。
2. 鼻の中に何も入れずに、鼻翼全体をできる限り深くつまみ、鼻中隔を圧迫止血します。
3. 鼻呼吸ができない状態で、約15分持続的に圧迫します。



口の異常・頭をぶつけた・やけど

口の異常

日中にかかりつけ医へ

- 口内炎、舌炎、歯肉炎があって痛みがある
- 口の中に発疹がある

頭をぶつけた

日中にかかりつけ医へ

- すぐに泣いて他に症状が無い
- たんこぶができています

夜間でも相談または受診

- ぶつけた部位がへこんでいる
- 何回も吐いている
- 顔色が悪い

救急車を呼ぶ

- けいれんを起こしている
- 意識が無い
- 出血が止まらない

やけど（熱傷）

日中にかかりつけ医へ

- 熱傷面積がお子さんの手のひらより狭いとき（指先など）
- 水ぶくれがないとき

夜間でも相談または受診

- 関節部分や手のひらなどを熱傷した場合
- 熱傷部分が白、もしくは黒くなっている場合

救急車を呼ぶ

- 広範囲のやけどの場合（やけどの面積がお子さんの手のひらより広いとき）
- 顔のやけど

口の痛みがあるとき

痛みで食事が取れない場合でも水分補給をしっかりとしましょう。痛みが強い時は氷やアイスクリームなどの冷たいものの方が痛みは楽になります。

頭をぶつけたとき

意識もしっかりとしていて元気ならば、ぶつけた部位を冷やして様子を見ましょう。

こどもは頭をぶつけた後で吐くことがあります。1、2回の嘔吐で元気であれば、様子を見ても大丈夫です。ただし、何回も続けて吐いていたり、1、2回の嘔吐でもぐったりしたりしている場合は救急を受診する必要があります。

頭をぶつけた直後は大丈夫でも、数時間は症状が変化する可能性があります。24時間は注意して、症状が変化したときは再度左のページの表を確認してください。

やけどの応急手当

- 流水（水道水）や氷などを利用して冷やします（市販の冷えるシートは、熱傷の冷却用には使えません）。
- 熱いお風呂に落ちたなど、服を着たままの熱傷の場合には、服の上から冷やします。最低20～30分間以上、痛みが消失するのを目途に冷やしましょう。

時間外受診のポイント

- 広範囲の熱傷の場合には、熱傷の程度が軽くみえても受診をしましょう。
- 熱傷部分が白、もしくは黒くなっている場合は範囲に関わらず必ず受診しましょう。
- 関節部分や手のひらなどを熱傷した場合、皮膚の引きつれがおこり、動かしにくくなる可能性がありますので、早めに受診しておきましょう。
- 顔のやけどは気道のやけどの可能性があるので、救急車で受診してください。
- 熱傷の重症度判断はきわめて難しいので、判断がつかない場合は病院を受診しましょう。

救急車を呼ぶとき

上手に医師にかかる

発熱

けいれん

腹痛、嘔吐、下痢

咳・喘鳴、息苦しい

泣きやまない

発疹

耳・目・鼻の異常

口の異常、頭をぶつけた

やけど

お腹や目をぶつけた

擦り傷、切り傷

誤飲・誤嚥

こどもの心肺蘇生

AED

こどもの事故予防

小児救急の情報

お腹をぶつけた・目をぶつけた・手足・擦り傷・切り傷



お腹をぶつけた

日中にかかりつけ医へ

- 痛みが数時間たっても続いている
- 食欲がなくなっている
- 顔色が悪くなっている

救急車を呼ぶ

- ぶつかった直後から、またはぶつかってから2時間以内に何回も吐いている



目をぶつけた

日中にかかりつけ医へ

- 痛みも落ち着いている

夜間でも相談または受診

- 痛みが数時間たっても続いている
- 目の充血や出血がある
- 目が見えにくくなっている
- 物にぶつかりやすくなった
- 目のまわりにパンダのようなアザができた



手足

日中にかかりつけ医へ

- 手や足をぶつけて、爪が剥がれてきている、爪の中に内出血がある

夜間でも相談または受診

- 手や腕を引っ張った後から腕を痛み、動かさない



切り傷
擦り傷

夜間でも相談または受診

- 切り傷を圧迫して止血できるが、傷が深く、皮下脂肪が見えている
- 切り傷を圧迫しても出血が止まらない
- 擦り傷を水で洗っても砂等の異物がたくさん残っている

お腹をぶつけたとき

痛みもすぐに落ち着き、食欲があればそのまま様子を見ましょう。ぶつけた直後や、1、2時間以内に吐き始めた時は内臓打撲の可能性があるので、救急車を呼ぶようにしてください。

目をぶつけたとき

軽度の打撲であれば冷やして安静にして様子を見ましょう。小さいボールが強く当たったり、目が開いた状態で目にもものがぶつかったりしたときは注意が必要です。目の中は表面からはわかりにくいので、眼科の救急を受診するようにしてください。

腕を引っ張った後から痛がっているとき

小さいこどもの腕や手を強く引っ張った後で腕を痛み、特に腕を上げるのを嫌がる場合があります。ちゅうないしょう肘内障といって肘の腱がずれたために起こるのですが、早めに整復することで痛みも落ち着きます。時間が経過すると整復した後もしばらく痛みが続くことがありますので、早めに受診するようにしてください。

新しい傷の治療法

手足などに切り傷や擦り傷ができたときに、「消毒→ガーゼのついた絆創膏を使用→傷を乾かしてかさぶたができるのを待つ」このような処置を行っていませんか？

現在の傷の治療法は全く正反対の治療を行っており、傷をきれいに早く治すことができます。

1. 消毒で傷の化膿を防ぐことはできません。かえって消毒することで傷の治癒を遅くする原因になってしまいますので消毒はしないでください。まずは傷に入った砂などの異物をしっかりと水道水で洗い流すことから始めましょう。異物が多くて取れないときには病院を受診して取ってもらうようにしてください。
2. しっかりと水道水で洗ったら、傷から出て来るしんじゅつえき滲出液を閉じ込める様にします（これを湿潤療法といいます）。その浸出液の中には皮膚の再生を促す大切なものがたくさんつまっています。潤った状態を保つ事で傷をきれいに早く治す事ができるのです。一般的なガーゼのついた絆創膏はその液を吸い取って、乾燥させてしまいます。傷を乾燥させてかさぶたができると皮膚の再生が遅くなってしまい、傷が治りにくく、またきれいに治りにくくなってしまいます。傷を潤った状態に閉じ込めるために家庭用に市販されたものが「キズパワーパッド」などの家庭用創傷パッドです。
3. 広範囲の場合には家庭用のラップと軟膏を使用する事もできます。ガーゼや絆創膏で治すときは、傷を乾燥させないために軟膏をたっぷり塗ることをおすすめします。傷用の軟膏は薬局・ドラッグストアで購入できます。医療機関でも処方してもらえます。

誤飲

緊急で受診が必要なもの（絶対に吐かせないものは水分も摂らせずに受診）

飲み込んだもの	対応	備考
医薬品	救急車を呼ぶ	
液体蚊取り	救急車を呼ぶ	絶対に吐かせない
生石灰（乾燥剤）	救急車を呼ぶ	絶対に吐かせない
釘・画鋸（尖っているもの）	夜間でも受診	
磁石（複数個）	夜間でも受診	
しょうのう（防虫剤）	救急車を呼ぶ	
除草剤	救急車を呼ぶ	
洗浄剤（トイレ・パイプ用）	救急車を呼ぶ	絶対に吐かせない
たばこ吸い殻を浸した水	救急車を呼ぶ	
灯油・ガソリン・ペンジン	救急車を呼ぶ	絶対に吐かせない
ナフタリン（防虫剤）	救急車を呼ぶ	
漂白剤（塩素系）	救急車を呼ぶ	絶対に吐かせない
ホウ酸団子	夜間でも受診	
ボタン電池	夜間でも受診	
マニキュア・除光剤	救急車を呼ぶ	絶対に吐かせない
有機リン系殺虫剤	救急車を呼ぶ	

量によっては自宅で様子をみられるもの

飲み込んだもの	対応
食品保存剤（脱酸素剤）	
シリカゲル	
化粧水	顔が真っ赤になっていたら要受診
保湿クリーム	
口紅	
香水	5ml以上飲んだら要受診
シャンプー・コンディショナー	
石鹸	
シャボン玉液	
トイレ芳香剤（液体）	顔が真っ赤になっていたら要受診
トイレ芳香剤（ゲル・粒）	
パラジクロロベンゼン（防虫剤）	1個以上食べたなら要受診

誤飲したとき

- 吐かせてはいけないもの、水分摂取してはいけないものがあります。
- 左のページの上の表に記載されているものは、特に緊急度の高いものです。
- 表に記載が無いものに関しては、下記の中毒情報センターへ問い合わせてください。
- 飲んでしまったものと同じものがあれば、受診時に必ず持参してください。

（公財）日本中毒情報センター

家庭用品・医薬品・動植物の毒などによって起こる急性中毒について、実際に事故が発生している場合に限定し情報提供しています。

※異物誤飲（小石・ビー玉など）・食中毒・慢性中毒・医薬品の常用量による副作用・ショックなどについては、相談を受け付けていません。

一般専用電話［中毒110番］

大阪 ☎ **072-727-2499** （365日・24時間対応）

つくば ☎ **029-852-9999** （365日・24時間対応）

たばこ誤飲事故専用電話

☎ **072-726-9922** （365日・24時間、自動音声応答による情報提供）

いずれも情報提供料は無料です



救急車を
呼ぶとき

上手に医
生にかか
る

発熱

けいれ
ん

腹痛・嘔
吐下痢

咳・喘鳴
息苦しい

泣きやま
ない

発疹

耳・目・鼻
の異常

口の異常・
頭をぶつけた

やけど

お腹や目
をぶつけた

擦り傷
切り傷

誤飲・誤
嚥

こどもの
心肺蘇生

AED

こどもの
事故予防

小児救急
の情報

誤嚥

誤嚥とは

「誤嚥」とは、ものを飲み込む時に空気の通り道に間違って入ってしまうことです。嚥む力、飲み込む力が弱いこどもたちは、大人が大丈夫だろうと思う大きさの食べ物も誤嚥することがあります。

誤嚥しやすいものは、下記の特徴があります。

- 大きなものを誤嚥すると気道の太い部分に詰まり、窒息してしまいます。
- 小さいものを誤嚥すると気道の細い部分に詰まり、窒息は免れますが、その後時間が経ってから難治性の肺炎を起こします。
- 薄くペラペラしているものは、喉を覆ってしまうと窒息してしまいます。

誤嚥しやすいもの



丸くてツルツとしているもの

ぶどう、プチトマト、ソーセージ、ビー玉、こんにゃくゼリーなど



ネッチリもしくはモサモサしているもの

モチ、焼き芋、カステラ、冷却ジェルシートなど



噛み切りづらいもの

りんご、梨、水菜、唐揚げなど



パサパサしているもの

焼き海苔、ゆで卵（卵黄）など



ピーナッツは太い気道には詰まりませんが、ピーナッツの油分が気道に炎症を起こさせ、また内視鏡でも除去しづらいので、誤嚥するとその治療は非常に難しくなります。

誤嚥の症状

- 息を吸う時にお腹がへこみ、ヒーヒー音がする。
 - 急に咳き込み始め、声が出せない。
 - 年長児であれば、自分で首を締めるような動作を繰り返し、パニックになる。
- 上記は危険なサインです。**救急車を呼ぶ必要があります。**

誤嚥したかな？と思ったら

- 救急車を要請する。
 - 救急車到着までの間に応急処置を行う。
 - 応急処置は1歳以下なら背部叩打法もしくは胸部突き上げ法、1歳以上ならハイムリッヒ法を行う。
- 応急処置は見て、やっておかないと、もしもの時に絶対できません。下のQRコードの動画を確認しておきましょう。

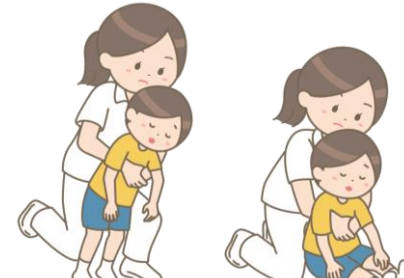
背部叩打法



胸部突き上げ法



ハイムリッヒ法



立位

座位

誤嚥させないために

- 嚥む力、飲み込む力が安定するのは6歳以上
- 詰まったものを咳で出す力がしっかりするのは3歳以上
- 径4cm程度のものは、こどもの口に入ってしまうが、噛めないし、飲み込めないので窒息する。
- 5歳まではツルツルした食べ物は必ず4分割して与える。
- 径4cm程度のものは、こどもの手の届くところに置かない。
- 豆類をそのままでは、3歳以上までは与えない。

参考

日本小児科学会HP こどもの生活環境改善委員会作成
https://www.jpeds.or.jp/modules/guidelines/index.php?content_id=123



日本小児科学会 こどもの事故と対策 窒息
https://kodomo-qq.jp/jiko/index.php?pname=jiko_chissoku



窒息事故から子どもを守る！動画消費者庁 【消費者安全調査委員会】
<https://www.youtube.com/watch?v=PaT8fjCNzQI>



こどもの心肺蘇生術

(胸骨圧迫、人工呼吸)

1

意識がない！

大声で叫び、人を呼ぶ

周りの人に119番通報とAED準備の依頼

2

呼吸をみる

「胸やお腹が上下しているか」
「手を鼻にかざして息を感じるか」

普段通りの呼吸がある場合

肩枕（背中にタオルを敷く）をして救急車を待つ

様子を継続して見る
嘔吐しそうな時は横を向ける



3

呼吸がない、あるいは、あえぐような呼吸

“心停止”と判断する

4

迷わずただちに胸骨圧迫（心臓マッサージ）開始

すべての年齢で

強く（胸の厚さの約1/3）、
速く（1分間に100回以上）、できるだけ中断しない

1歳未満

体格の大きい子は1歳以上に準ずる



胸の中央を2本の指で強く、早く圧迫

1～7歳



胸の中央を片手か両手で強く、早く圧迫

8歳以上



胸の中央を両手で強く、早く圧迫

5

人工呼吸を習ったことがあり、自信がある場合は、気道確保し人工呼吸を行う

血がついていたり、吐いたものが口の周りについていたとき、または自信がない場合は、人工呼吸をしないで胸骨圧迫を続ける

人工呼吸（1回1秒で2回息を吹き込む）

片手でおでこを押さえ

もう一方の手であご先をもち上げる



1歳未満

口と鼻の両方を大人の口で覆い息を吹き込む



1歳以上

片方の手で鼻をつまみ、口から息を吹き込む



6

胸骨圧迫とできれば人工呼吸の繰り返し

2人で行う場合...胸骨圧迫15回ごとに人工呼吸を2回行う

1人で行う場合...胸骨圧迫30回ごとに人工呼吸を2回行う

7

除細動器（AED）の使用



心臓突然死の多くは、生命に危険がある不整脈（心室細動）が原因です。

AEDは駅や学校などの公共施設に多く設置されており、心臓への除細動（電気ショック）を自動で行い、危険な不整脈の治療が行える機器です。電源を入れると音声流れますので、メッセージに従って使用してください。

次ページへ

自動体外式除細動器(AED)の使い方

こどもには... AEDに、小児用のモードがあれば「小児用モード」でパッドも、小児用があれば、そちらを利用します。なければ成人用でもOKです。成人用AEDパッド同士が接触してしまう場合には、一枚を胸部に一枚を背部に貼ってください。

AEDの蓋を開ける

電源ON

自動で電源が入るものと電源ボタンを押すものがある

パッド装着

心電図自動解析
体に触れないように

電気ショック必要

電気ショック不要

電気
ショック

心臓マッサージを再開

目的のあるしぐさがある、受け答えが可能になった

回復体位や肩まくら

注意!!

- ・ AEDの準備中も心臓マッサージを続行する。
- ・ 「ショックは不要です。」という機械音が流れても、心臓マッサージを続ける。

参考

東京消防庁公式チャンネル

小児の心肺蘇生（AED使用を含む）

<https://www.youtube.com/watch?v=RfQkMBqso2c>



乳児の心肺蘇生（AED使用を含む）

https://www.youtube.com/watch?v=YiJBM_4FT00



- 突然の心臓マッサージは焦ります。日頃から心肺蘇生法の動画を見て備えましょう。
- AEDがお住いの地域で、お出かけ先で、どこにあるのか確認しておきましょう。



こどもの事故予防

こどもの事故について

こどもの死因の主たる原因の一つは「不慮の事故」です。不慮の事故とは交通事故のことでなく、日常生活の中で起こるアクシデント（高いところから落ちる、お風呂で溺れる、ものを喉につまらすなど）のことです。こどもは大人が予想する動きはせず、突発的に動きます。このため「危ないからしないだろう」、「ほんのちょっとだから一人にしても大丈夫だろう」という油断がその子の命を落とすことになったり、重い障害を残すことになったりします。

どのようにして事故を予防する？

こどもを取り巻く環境には、事故の原因となるものがたくさんあります。「大人がこどもから目を離さない！」これはとても大切なことですが、これだけでは事故は予防できません。「目を離しても大丈夫！」という環境を前もって整えておくことが大切です。こどもの目の高さで周囲を見回し、危険なものがないか日ごろから確認しておきましょう。

月齢・年齢別に見る不慮の事故

	誕生	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	12か月	13か月	1歳半	2歳	3歳	3~5歳
運動機能の発達		体や足をバタバタさせる		見たものに手を出す 口の中のものを入れる	寝返りをうつ	座る	ものをつかむ	はう	家具につかまり立ちする		一人歩きをする	スイッチ・ノブを触る	走るのぼる	階段をのぼりおりする	高い所へのぼる	
誤飲・窒息	枕・柔らかい布団による窒息				何でも口に入れる	小物、たばこ、小さなおもちゃの誤飲		スタイ、ひも、コード		ナッツ豆類		薬・化粧品		ビニール袋		
おぼれ	入浴時の事故								浴槽への転落					プール、川、海での事故		
切りきざし打撲			床にある鋭いもの		鋭い角のあるおもちゃ				家具、建具の鋭い角 かみそりでのいたずら			テーブルの鋭い角 ドアのガラス ドアに手をはさむ 引き出しの角など			屋外での石など	
やけど	熱いミルク 熱い風呂		ポット、飲物				炊飯器、ストーブ、ヒーター、アイロン							マッチ、ライター、湯沸かし器、花火		
転落	抱っこひもから落ちる	ベット、ソファからの転落			歩行器による転落	階段からの転落	バギーや椅子からの転落	浴槽への転落		階段ののぼりおりでの転落		窓、バルコニーからの転落			すべり台 ブランコ	
交通事故	自動車同乗中の事故								通りでのよちよち歩き			母親との自転車の2人乗り		三輪車の事故	自転車の事故	

出典：「子どもの事故予防と応急手当マニュアル」 編集：（公財）母子衛生研究会

Column 事故予防のポイント

誤飲・窒息に注意！

- 赤ちゃんの敷布団は固めのものを選び、うつぶせ寝はさせない
- タオルや布団で赤ちゃんの顔を覆わない
- たばこ（灰皿）、薬品、洗剤、化粧品、硬貨、ボタン電池、磁石、ビー玉、飴玉、ピーナッツ、ビニール袋、ひもなどを赤ちゃんの手の届くところに置かない

転倒・転落・外傷・打撲に注意！

- ベビーベッドの柵は上げておく
- 赤ちゃんをソファに一人で寝かせない
- ドアや窓の開け閉めに注意する
- 角のとがったテーブルなどの家具にはカバーをつける
- 玄関や階段など段差のあるところには転落防止柵をつける
- ベランダや窓側に踏み台になるものを置かない
- ドアの蝶つがいに指が入らないようカバーをつける
- 歯ブラシ・フォークなどを口にくわえたまま歩かせない
- こども用のいすは安定設計のものを使う
- 三輪車（自転車）に乗る時ヘルメットをかぶせる

やけどに注意！

- 熱いお茶、コーヒー、味噌汁、カップラーメンをテーブルの端に置かない
- テーブルクロスは使わない
- 熱い鍋・アイロン・ポット・炊飯ジャーなどはこどもの手の届くところに置かない
- コンセントにはコンセントカバーをつける
- シャワーの温度は低い温度に設定しておく
- ストーブ・ヒーターにはガードをつける
- ライターやマッチは手の届くところに置かない

溺水に注意！

- 入浴中に赤ちゃんから目を離さない
- 浴室に鍵をかけ、浴槽や洗濯機の水はすべて抜いておく
- 水遊び川遊びには必ず大人がついていき、ライフジャケットを着用させる

交通事故に注意！

- チャイルドシートを正しく使う
- こどもと手をつないで、大人が車道側を歩く
- こどもに交通ルールを教える（歩道を歩く、飛び出しをしない、横断歩道や歩道橋をつかう、信号機の見方など）

小児救急診療に関する情報

小児科 発熱・腹痛・嘔吐・咳など、小児の内科的な救急診療

「小児科」の休日診療 午前9時～午後5時

市内の診療所（病院）が輪番制で診療しています。

「広報はちおうじ」で「休日救急診療 内科・外科・小児科」をご覧ください。
市ホームページでは「もしもの時のために・救急診療(<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/emergency/medical/index.html>)」に掲載されています。



「小児科」の夜間救急診療

- 1 ●毎日午後8時～11時
夜間救急診療室（南多摩病院） ☎042-663-9911
- 2 ●奇数日の休日と奇数日の夜～翌朝
東海大学医学部附属八王子病院 ☎0570-000-802
- 3 ●偶数日の休日と偶数日の夜～翌朝
東京医科大学八王子医療センター ☎042-665-5611
- 4 ●毎日・通常診療からひきつづき
南多摩病院 ☎042-663-0111

受診されるときは、事前にお電話をお願いします。

医療救急電話相談（夜間）

●毎日午後8時～10時30分

夜間救急診療室 ☎042-663-9911

医師看護師などによる医療・健康心配ごと電話相談

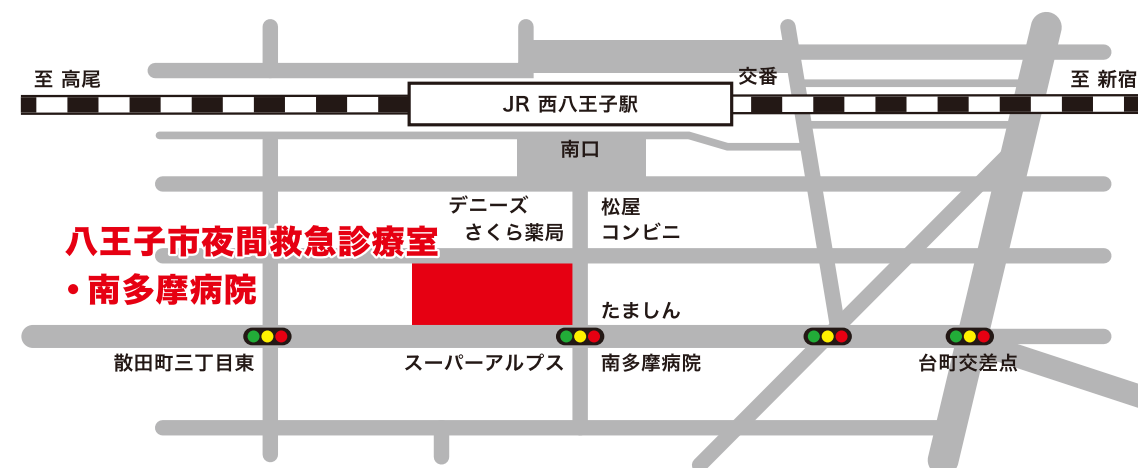
●奇数日の休日と奇数日の夜～翌朝

東海大学医学部附属八王子病院 ☎0570-000-802

●偶数日の休日と偶数日の夜～翌朝

東京医科大学八王子医療センター ☎042-665-5611

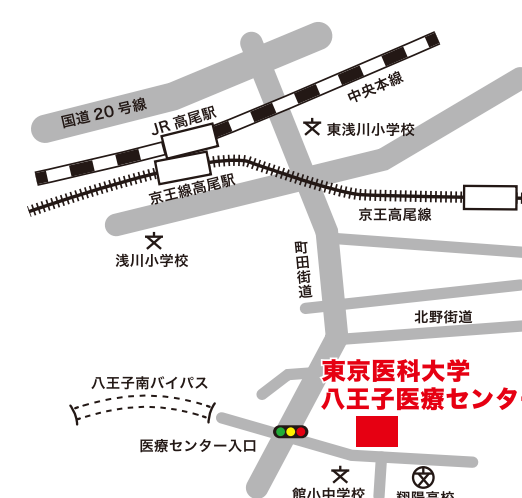
1 4 八王子市夜間救急診療室・南多摩病院 八王子市散田町3-10-1 南多摩病院 1階



2 東海大学医学部附属八王子病院 八王子市石川町1838



3 東京医科大学八王子医療センター 八王子市館町1163



救急車を呼ぶとき
上手に医者にかかる
発熱
けいれん
腹痛・下痢
嘔吐
咳・喘鳴
息苦しい
泣きやまない
発疹
耳・目・鼻の異常
口の異常・頭をぶつけた
やけど
お腹や目をぶつけた
切り傷
誤飲・誤嚥
心臓蘇生
AED
事故予防
小児救急の情報

小児救急診療に関する情報

小児科以外（内科的な診療以外）の救急診療

外科・耳鼻咽喉科・眼科の休日救急診療

休日の「外科」午前9時～午後5時

市内の診療所（医院）が輪番制で診療しています。
診療する医院は「広報はちおうじ」でご案内しています。

外科（上記以外）・耳鼻咽喉科・眼科

2 欄下「救急病院のご案内」をご覧ください。

歯科の休日応急診療

午後9時～正午、午後1時～午後4時（受付）

休日歯科応急診療所

（小児・障害メディカルセンター内）

休日に応急的な診療を行います。

八王子市台町4-33-13

☎042-622-7026



救急病院のご案内

24時間

東京消防庁救急相談センター ☎#7119（プッシュ回線・携帯電話・PHS）

☎042-521-2323（ダイヤル回線）

八王子消防署

☎625-0119

医療機関案内「ひまわり」

☎03-5272-0303

医療情報のお役立ちサイト

医療機関情報と薬局情報について

医療情報ネット ナビ

<https://www.iryuu.teikyouseido.mhlw.go.jp/zkn-web/juminkanja/S2300/initialize>



子供の病気や発熱・怪我・子育ての情報について

東京都子ども医療ガイド

<https://www.guide.metro.tokyo.lg.jp/>



救急車、呼ぶべきか迷ったら...

シャープ

なな

いち

いち

きゅう

#

7

1

1

9



東京消防庁救急相談センター(24時間)

プッシュ回線・携帯電話・PHS から ☎#7119

ダイヤル回線から ☎042-521-2323



●こどもの急な病気に困ったら

#

8

0

0

0

子供の健康相談室（小児救急相談）
5ページ参照

隣接する市の夜間救急診療

町田市医師会休日・準夜急患子どもクリニック【小児科】

■診療日：毎日 ■受付時間：午後6時（午後7時から診療）～9時30分

■場所：町田市原町田5-8-21 健康福祉会館1階 ■電話：042-710-0927

日野市子ども応急診療所（平日準夜診療所）【小児科】

■診療日：水・木・金（祝・年末年始を除く） ■受付時間：午後7時30分～10時20分

■場所：日野市高幡1011 日野市福祉支援センター内 ■電話：042-592-9940

日野市休日準夜診療所【小児科・内科】

■診療日：土・日・祝・年末年始 ■受付時間：午後7時30分～10時20分

■場所：日野市多摩平3-1-12 医師会館1階 ■電話：042-584-1661

多摩市子ども準夜診療所

■診療日：毎日 ■受付時間：午後7時～9時45分

■場所：多摩市関戸4-19-5 市立健康センター内 ■電話：042-375-0909

各市のご協力で掲載しています。

救急車を
呼ぶとき

上手に医者
にかか

発熱

けいれん

腹痛・嘔吐
下痢

咳・喘鳴
息苦しい

泣き
やまない

発疹

耳・目・鼻
の異常

口の異常・
頭をぶつけた

やけど

お腹や目を
ぶつけた

切り傷
擦り傷

誤飲・誤嚥

こどもの
心肺蘇生

A
E
D

こどもの
事故予防

小児救急
の情報